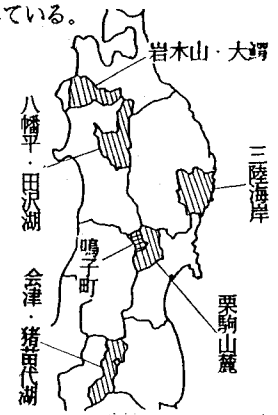
Ⅳ-188　リゾート開発による地域構造への影響

東北大学　学生員　○松本英雄
東北大学　正　員　湯沢　昭

1．研究の背景と目的

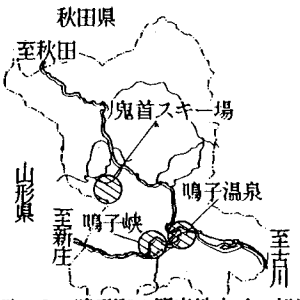
現在、多くの地域でリゾート開発が計画または実施されており、その内容も多岐に渡っている。これは企業の立地による地域の活性化が望めない地域でも、豊富な自然資源を有効に利用し、それにより過疎化に歯止めをかけ、ひいては地域の振興を図ることを目的としている。

このようなリゾート開発による地域の振興は従来の工場立地による地域開発が地域内の労働力のみを必要としたのとは異なり、リゾート客の行動により様々な関連産業への波及効果が期待できるところに特徴がある。



図－1　東北地方のリゾート開発

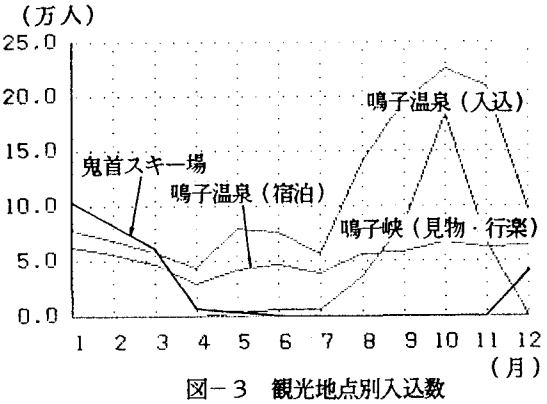
本論文では、宮城県鳴子町を研究対象とし、リゾート開発による効果が地域に及ぼす影響を構造的、空間的に把握しあわせてリゾート開発のもつ問題点の考察を行なう。



図－2　鳴子町の観光地点（一部）

2．鳴子町の観光実態

鳴子町への観光目的は、慰安・休養（温泉）、見物・行楽、スキーに大別される。見物・行楽は秋の紅葉シーズンに集中している。それに伴い、温泉地でも入込数は増加しているが宿泊者数は入込者数ほどは変化していないので、両者の結び付きは弱いといえる。スキーは12月から 3月までがシーズンであると考えられ、その宿泊者数はさほど多くはないが閑散期を埋めるような働きをしている。図－3は鳴子町における観光地点別入込数を月別に示したものである。



図－3　観光地点別入込数

3．リゾート開発の実態と経済効果

鳴子町鬼首地区において昭和52年度より鳴子町などの参加した第3セクター方式による通年型高原リゾート開発が進められており、現在までにスキー場整備を中心とした事業展開がなされている。

表－1は昭和52年度より61年度までのリゾート開発による経済効果を表わしている。

表－1　経済効果の空間的分配の推計

（単位：百万円）

項目	鬼首	鳴子町	その他	合計
人件費	461	5	176	642
原材料など	459	14	50	523
建設費	633		7,393	8,026
小計	1,572		7,619	9,191
宿泊費	1,870		0	1,870
合計	3,442		7,619	11,061

経営形態が第3セクター方式のため、物品などの購入や雇用は地元優先策がとられ、原材料など（おもに食料品、燃料）の購入についてはその約90%が、人件費については約73%が鳴子町内へ経済効果が及び、またその大部分は鬼首地区へ及んでいる。

しかし建設費に関しては、鳴子町内に大手建設会社がなく、その大部分が町外への効果となっており、町内へは一部下請け業者への効果が計上されている。以上の効果を合計すると、61年度までの10年間に鳴

子町へのリゾート開発事業による経済効果は約15億7千万円となる。

この他の経済効果としては、スキー客の宿泊によるものがある。同期間中の鬼首へのスキー客のうち、宿泊者数は約 168,200人であり、これは鳴子町全体での宿泊者数の1.69%にあたり、その宿泊費の合計は約18億 7千万円と推計される。この期間中、リゾート開発事業体自体はホテルなど経営を行なっていないので、この経済効果は地元の旅館などに及ぶ。従って、リゾート開発による直接効果は約34億 4千万円となり、これに間接効果（二次以降の波及効果）を含めると全波及効果は、約55億円になるものと推定される。

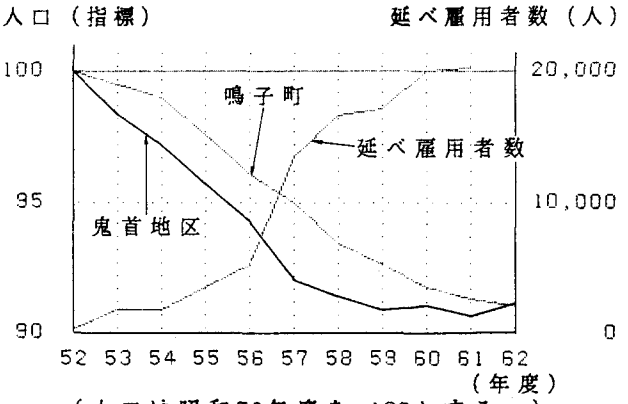
これまでに鬼首地区のスキー場施設はほぼ完成したものの、冬期間以外の施設（ゴルフ場、乗馬施設など）は現在計画または建設中であり、現在、リゾート開発は鳴子町のサービス業による経済効果に占める割合は約 9.6%にすぎないが、今後、通年型リゾート地としての整備に伴い、現在鬼首地区を中心に及んでいる経済効果が鳴子町全体に及び、その効果の大きさもかなり期待できるものと思われる。

4．リゾート開発による地域構造の変化

前節では、リゾート開発による経済効果について検討を行なったが、その他の効果としては次のようなものが挙げられる。

(1) 関連産業の動向：これについては、ペンション 7件、民宿 1件、レストラン 1件が営業を開始しているほか、数件の旅館がこれまで休業していた冬期間に営業するようになるといった効果がみられる。

(2) 雇用効果による人口の定着：民宿経営者にみられるUターン組、あるいはペンション経営に取り組む者などの転入により、鬼首地区の人口減少はリゾート開発での雇用者が急激に増加した昭和57年より人口現象に歯止めがかかり、昭和60年、62年には増加さえしている。鳴子町全体としては、いぜんとして人口は一様に減少しており、さらに昭和40～50年代を通じて町内で最も人口減少の激しかったのが鬼首地区であることを考えると、当初の目的の一つである過疎化解消に対する効果は絶大なものがあったと思われる。図－4は鳴子町、鬼首地区の人口変化とリゾート開発による年間雇用延べ人数を表わしている。



（人口は昭和52年度を 100とする。）

図－4　人口変化とリゾート開発での雇用者数

(3) 出稼ぎの減少：地元での冬期間の雇用の場が確保できた事により、地元の農家はこれに積極的に対応し出稼ぎ者数は著しく減少している。

(4) 高齢化現象への影響：これまで鬼首地区は一方的な若年層の転出に伴い、鳴子町内でも高齢化の著しい地区であったが、リゾート開発による若年層の定着あるいは転入により、地域社会に活性化の兆しがみられる。

5．リゾート開発の抱える問題点

鳴子町の観光関係者、商工関係者に対するヒアリング調査を通じて、リゾート開発により地域の振興を図ろうとする上で、以下のような問題が存在する。

(1) 鳴子町内に散在する各観光地点間にネットワークが設定されていないため、訪れる観光客も短期滞在、少周遊地型に留まっている。

(2) 観光業者のやげ物や食料品などの需要に地元の小売業者はその質と量の両面で供給能力はなく、観光業者は地域外の大手卸売・製造業者と結び付き、地域内関連産業の振興がはかられない。

(3) リゾート開発が鳴子町も参画している第3セクター方式にも関わらず、地域振興という立場での積極性が見受けられず、中核になる機関がない。

(4) 現時点で既に鬼首地区内の労働力の余剰はなく、同地区に労働人口を定着させることができなければ、今後の事業展開に必要な労働力は他の地区より導入しなければならない。